

事業所名 キッズランドまめの木 玉造校

公表日 令和8年 2月 21日

児童発達支援

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	改善目標、工夫している点など	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%	0%	0%	スペースは十分に確保されていると思う。	
	2	職員の配置数は適切であるか	80%	20%	0%	職員の配置数は多いと思うが、その分丁寧なかわりができている。	チームワークが今後の運営で要となる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	40%	40%	20%	今は対象者いない段差が幾つかあり、バリアフリー化はなされていない。車椅子の利用者も対応できる作りとはなっているが（共通スペースのみ）トイレはバリアフリーではない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返りに、広く職員が参画しているか) PDCA...P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)	100%	0%	0%	送迎や利用時間については職員の配置上難しいパターンもあり、受け入れについては慎重に考え利益に反映させていく。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	80%	0%	20%		
	6	この自己評価の結果を、事業所のホームページ等で公開しているか	100%	0%	0%	自己評価は公開しているが、活用方法は周知されていない。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか(まめの木では、第三者評価は行っていない)	0%	60%	40%		
	8	職員の資質の向上のために、研修や勉強会の機会を設けているか	100%	0%	0%	経営の内容については、その分野に詳しい人が勉強を行うなど工夫しても良いと思う。毎月各校で研修を行いリスク会議の議題を共有して組織の中で働く意識や自覚を持ち現場にフィードバックしている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の要望や課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	80%	0%	20%		
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツール(知能検査・発達検査)を使用しているか	0%	60%	40%	保護者を通じて、学校や病院からの検査結果を使用している。一人一人の特性の違いに困惑する場合は支援の中でたくさんあり、標準化されたアセスメントツールがあれば支援の指標にもなり、参考にしやすい為用意する必要性を感じる。	
	11	児童発達支援計画には、「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%	0%	0%		
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%	0%	0%	個別支援計画書の達成状況を考慮し日頃から支援の中でどのように対応するかを考えている。	
	13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	0%	活動分野をそれぞれが得意なものを担当し、分担している。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	0%	それぞれ、担当している為、固定化しないよう工夫している。5領域をバランスよく配置し子どもたちが参加するレベルに振り回さず配慮している。	
	15	子どもの特性や家庭状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	100%	0%	0%	個別支援計画書を作成、更新する際には必ず保護者に内容を確認してもらっている。また、日頃から保護者と情報共有を行い家庭状況に応じて個別や集団での活動をバランスよく行っている。	
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	0%	打合せする予定で行うことで、職員の当日の役割を明確にし、それぞれが内容を周知した上で業務に取り組んでいる。毎朝ミーティングを行い、前日の振り返りや連絡事項について確認、当日の予定を共有して役割分担をういてスムーズな業務進行ができるようにしている。	
関係機関や保護者	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	0%	支援を通して良かった点、改善点どちらも共有できている。送迎から戻ってきた際には、保護者からの伝達など必ず他職員に伝えて、全体で共通理解している。	
	18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%		
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	80%	0%	20%		
	20	障害児相談支援事業所のサービスマン会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	80%	0%	20%	事前に事業所内でも内容を共通理解した上で最もふさわしい職員が出席している。管理者が最もふさわしい場合がほとんどだが、子どもの状況によっては例外もあるため、その時にふさわしい者を選出して参画する。	
	21	母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	80%	20%	0%	他の関係機関との連携までは至っておらず、事業所内だけの支援にとどまっているため、今後は他機関との連携を広げていきたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	40%	40%	20%	今はない	

この連携関係機関や保護者との連携	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	60%	20%	20%		
	24	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	80%	0%	20%	児童発達については、保護者間との情報共有が偏りがちである。今後きちんと対応したい。	
	25	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	60%	20%	20%		
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	20%	60%	20%	公園あそびを通じて交流、緑田のつなぐ園(子供サークル)主催の研修に行く機会があり、参加したいと考えている。	今後も同業種や専門機関との交流・連携を図ることが組織や個人の成長につながる。
	27	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0%	100%	0%	機会を設け、社会につながる楽しさを感じるイベントに参加させたい。近隣の保育園や幼稚園に挨拶に行く機会はあっても、交流まではなかなか踏み込めてない。	
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	0%	100%	0%	現場の仕事が回らないことが多く、社外での研修や会議に積極的に参加できていないのが現状である。	
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	日頃から伝達は密に行い、まめの木で過ごす意義を感じていただけるよう工夫する。連絡帳を通して日常の様子を共有し課題なども含めやり取りをしている。家庭の状況も踏まえて、共通理解を持って支援に反映させている。	
保護者への説明責任等	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	80%	0%	20%	所属の心理士による相談受付も設けており、悩みのある保護者について積極的に窓口につなげている。応えられる範囲では現場で助言を行う場合もある。	
	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%	事業所との契約の時に、必ず説明を行っている。	
	32	作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%	0%	0%		
	33	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	保護者の気持ちに寄り添い安心して利用いただけるように配慮している。送迎の際や公式LINEのやり取りの中で、不意に相談を受けることが多く、都度対応した職員が真摯にアドバイス等をしている。	
	34	保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	80%	20%	0%	保護者同士、関わる機会があまりない為、機会を設けたい。保護者会の後も親子活動を実施し、保護者同士が話せる機会を作ってピアサポートで支えあえる関係性を支援している。	
	35	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	公認心理士による手厚いサポートが受けられることを常に発信し保護者に対して安心して体制が整っている状況を周知している。相談や申し入れがあった際には、迅速に対応し、しかるべき専門機関や専門家につなげている。	
	36	定期的なまめの木通信を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	毎月通信を発行し、情報を共有している。活動内容も写真と共に掲載し、視覚的に理解し安心してもらうために、ポップなレイアウトなど毎回変えながら発信している。	
	37	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%	0%	0%		
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	0%	視覚障害のあり子ども、その親御さんに対し、ゆつくりと大きく口を動かして話すようにしている。また、ボディーランゲージを交えながら、コミュニケーションを取ることもある。	
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	20%	80%	0%	地域との連携は低い。改善したほうが良いと思う。「子ども食堂」を企画し、食を通じて地域交流を図っていけたらと考えている。	
非常時等の対応	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	80%	0%	20%		
	41	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか	80%	20%	0%	火災を想定した訓練は実施している	
	42	事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	100%	0%	0%		
	43	食物アレルギーのある子どもについて、保護者の移行や医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	0%	現時点でアレルギー等がある利用者はいないが、契約の際にきちんと対応していきたい。	
	44	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%	過去のヒヤリハット事例をファイリングし振り返ったり記入する際に参考にしている。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修や勉強会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	情報共有できている。虐待防止についてリスク会議で取り上げた資料等を参照しながら事業所で共有し、勉強する時間を確保している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	80%	0%	20%		